

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202866		
法人名	有限会社あじさい		
事業所名	グループホームあじさい ユニット1		
所在地	長崎県佐世保市世知原町筥瀬778番地3		
自己評価作成日	令和7年8月12日	評価結果市町村受理日	令和7年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和7年10月22日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれたこの地で、理念に掲げているように家庭的な雰囲気の中で、「自由に楽しく笑顔で」をモットーに利用者様の尊厳を大切にする事で、安心して楽しく過ごして頂けるように職員一同ケアに努めています。また日々の健康管理に努めて出来る限り、お元気で長生きされるように支援しています。テレビにはネット接続し昭和歌謡曲などの懐かしい音楽を流しています。さらに地域行事や地域のインフォーマル資源を活用し、より充実した日々を送って頂けるようにしています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、“自由に 楽しく 笑顔で”という理念を掲げ、家庭的な雰囲気を利用者本位のケアを心がけている。世知原地区コミュニティセンターの移動図書館を利用して、利用者は毎月の読み聞かせの時間を楽しみにしている。地区文化祭には利用者が職員と手を携えて制作した作品を出展し、皆で見学に赴いている。敬老会では小学生によるよさこい踊りの披露があり、隣接するパン屋の利用や病院受診では、昔馴染みの知人と会話する機会となっている。地区会長、老人会会長、民生委員、派出所警察官、行政・包括担当者の参加による運営推進会議を開き、地域住民と共によりよいケアの実践に努めている。世知原地区の豊かな自然に抱かれ、職員自身が“自由に 楽しく 笑顔で”あることが利用者の幸せにつながるとする管理者の姿勢のもと、理念の実現を図る事業所である。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業者内に掲示し、朝の申し送り時には唱和を行い、理念共有に努めており、各自の勤務表にも掲げている。	“自由に 楽しく 笑顔で”という理念を掲げ、事業所内に掲示、朝の申し送り時に唱和する等、意識付けを図っている。家庭的な雰囲気を重視し、利用者の意向が難しい時には、どうすれば実現可能であるかを職員みんなで考える等、利用者本位のケアを心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月一回当施設にて世知原地区コミュニティセンター職員による絵本の読み聞かせを実施している。又地区文化祭準備と出品に携わり、文化祭見学している。また地区おくんの道中見学、じげもん市見学している。	世知原地区コミュニティセンターの移動図書館を利用し、利用者は毎月の読み聞かせの時間を楽しみにしている。地区文化祭には作品を展示している。敬老会では小学生のよさこいの披露があり、隣接するパン屋の利用や病院受診では、昔馴染みの知人と会話する機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の老人会の方や民生委員の方達に運営推進委員として参加して頂いている。その中で認知症についての症状、支援等について話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の利用状況説明、直近2ヶ月の活動、出来事の説明をしている。又職員の配置状況、内外研修の実施や受講状況の説明をしている。又苦情、アクシデントとヒヤリハット、加算の算定状況について説明し全体的なご意見を頂きサービスの向上に活かしている。	地区会長、老人会会長、民生委員、派出所警察官、行政・包括担当が出席し、年6回対面による会議を開催している。事業所からの活動報告についての評価、警察官や包括職員から地域の現状や運営に役立つ情報を得ている。家族の参加を促す手立てを講じているところである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方が多く利用されていることもあり、市町村担当者と連絡を取ることが多い。また分からない事があると長寿社会課に相談している。	担当課職員による利用者の様子確認訪問や介護保険認定時は職員が支所に出向く等、日常的に行政担当者と連携を図っている。研修情報や実施報告等は行政とメールでやり取りしている。資料の閲覧、不明な点の確認時は役所に出向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除については3ヶ月に1回を目安に委員会を開催し、指針の確認を行っている。職員への周知徹底は出来ている。日頃から拘束をしないで済むようなケアを目指している。	身体拘束適正化のための指針を整備し、3ヶ月毎に全職員で構成する委員会にて身体拘束をしないケアの確認を行っている。法人他施設との合同で定期的に高齢者虐待等の研修を実施している。言葉かけ等、普段のケアの中で気になった時は、その都度管理者が指導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当事業所主催にて年2回、講師を招き研修を開催しほぼ全員参加されている。又外部研修にも積極的に参加し、また年2回の高齢者虐待防止委員会を開催し、指針の確認と兆候や問題点などについて話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度は高齢者虐待防止研修会で学習した。成年後見制度を利用されている利用者がおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書を基に十分な説明を行うことを心掛けている。変更時は文書にて理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置し、運営方針等も掲示している。また出来る限りご家族と話す機会を増やすように努めている。	利用者の意見や希望は日常生活の中で聞き取っており、実現可能なことは迅速に支援している。家族の意向や希望は、面会時や電話で聞き取り、食べ物を預かっておやつに提供するなど意向を反映している。今後は、遠方の家族との交流のために、SNSの利用を検討している。	遠方の家族との交流には、タブレット等の機器を活用し、互いに顔を合わせて会話できる環境を整えることも方法の一つである。更なる工夫、取組に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを毎月行っており管理者は毎回参加し意見交換を行っている。代表も可能な範囲で参加し意見を聞いている。	各ユニットの管理者は、職場環境や支援方法について、職員一人ひとりから要望やアイデアを聞き取り、反映している。毎月のミーティングでは行事計画やケアについて検討しており、職員が意見等を発言する機会となっている。代表は、職員の負担軽減のために、浴室の全面改装を決定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤務予定表、実績表にて把握している。また各自の実績や困りごとに随時相談に応じられ職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会参加を積極的に進めておりスキルアップを目指している。また管理者と常日頃から連携を図り現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加盟しており、連絡協議会主催の研修会や検討会に必ず参加している。その他のネットワークにも出来る限り参加しサービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の面接時に、ご本人の話を傾聴し、想いに寄り添うように努めている。表情や声のトーン、分かりやすい言葉使いで不安な気持ちに配慮するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の想いをまず、傾聴することを基本とし、当グループホームの説明を充分に行うようにしている。気軽に相談して頂ける様、雰囲気づくりにも配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応で本人・家族にとって最善の支援になるように心掛けている。様々な選択肢があることや柔軟な姿勢で対応できることを理解してもらうように説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症状状態にある利用者様の思いや行動を理解しながら、職員も同じ暮らしの一員として家庭的な雰囲気づくりを大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の想いに寄り添えるように心掛け、何でも話せる関係の構築に努めている。また2ヶ月に1回「あじさい便り」に写真を載せて送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症発生時以外は面会を実施している。家族以外の面会も自由に行っている。	事業所には、利用者の家族、親戚の他、教会信者や従来からの友人が訪れている。また、病院受診の際に昔馴染みの人と会話している。盆、正月に孫の車で平戸の教会に出掛ける人や遠方の墓参りに家族も一緒に職員が送迎するなど、本人の馴染みの関係の継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が日々楽しく暮らせるように、また孤立しないように全般において配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、いつでも相談や支援が出来るような人間関係を構築するように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを表出できるような雰囲気づくりを行い、本人の意向を言葉として聞き取るか、困難な場合は本人の想いをくみ取るようにしている。	職員は入浴時や居室、リビングでは隣に座って一対一で会話するよう心掛けており、家族の話や昔の仕草の話などを傾聴している。また、利用者が発した言葉を大切に、伝達ノートや日勤夜勤の記録に記して共有し、職員間で検討している。難聴者には聞こえる方の耳に語りかけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には可能な限り事前訪問を行うようにしている。ご本人及びご家族からの聞き取りや、文書からの情報を収集し、状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身状態、有する力は申し送り時に把握に努めている。また現状に携わる事で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人及びご家族からの希望や意向を聞き取り、担当者会議で公表し意見交換後に計画を作成している。毎月のミーティングではケア会議を行い、意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画の作成を目指している。	入居後に暫定プランを策定し、状態を確認して本プランへと移行している。ケアプラン実施表による毎日の確認、毎月の職員ミーティング時には、全職員でケア会議を開き、検討した結果をモニタリングシートに記載、介護計画に反映させている。プラン変更や更新時には家族の意向を必ず確認し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には、毎日の個別の様子や健康チェック、食事量・水分摂取量、排泄状況などを記録に残し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々、ご本人及びご家族の状況に応じて喜んでいただけるようなサービスを提供出来るように工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	面会や外出は出来る限り家族や友人の意向を重視している。また電話などは自由にご希望に応じている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は本人及びご家族の希望を最優先している。またご家族への連絡も密に行っている。かかりつけ医、本人、家族との関係が良好に築けるようにしている。	本人及び家族の希望に基づくかかりつけ医への受診を支援している。母体医療機関が協力医療機関であり、内科・循環器科にも対応し、入院施設も備えている。また看護師が事業所の夜勤に従事している。夜間・緊急時には救急車を呼び適切に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切な受診や看護が受けられるように、看護職者に対し正確な情報を伝えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への情報提供を行い、病院関係者とのコミュニケーションにも努めている。ご家族も含め定期的に状況を把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について入所時のタイミングで、当施設の方針について説明している。終末期のあり方について、ご本人が判断できない場合は、医師からの説明後ご家族に判断して頂いている。	入所契約時に重度化・看取りに関する指針を説明し、同意を得ている。医師の判断のもと、終末期に向かう段階で、改めて家族に看取り介護についての事業所の対応を説明し、意思を確認している。同意書提示の時期、代理人署名の必要性については検討中である。	利用者が家族と共に人生の最期を迎えることができるよう、書類の整備、対応の仕方についての検討、工夫に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、日頃よりシュミレーションし、話題にしている。最悪の場合に備え、医師の指導を受け職員間で、実践力を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	消防訓練は年2回近隣の施設と合同で開催している。全員参加を目指している。土砂災害危険区域となっているため、年1回防災避難研修、訓練を実施している。運営推進会議で訓練の報告をしている。火災を未然に防ぐための対策として日中、夜間帯での自主検査チェックしている。	法人内の災害対策委員会の指揮のもと、年2回系列施設合同で訓練を実施している。消防署立会い訓練は行っていないが、消防機器検査時に業者から助言を得る機会がある。事業所で任意訓練も行っている。ただし、夜間帯暗所での避難を想定した訓練は未だである。	現在は夜勤明けの時間帯での訓練のみであるが、夜間の訓練を実施することで、避難完了サインや非常灯の場所などの再確認し、安全に避難できるよう訓練の検討、取組に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いは敬語、丁寧語にて対応し、個別的に支援することを目標にしている。誇りやプライバシーを傷つけることのないように、職員一同声かけあつて努めている。	職員は、利用者が安心するよう地元の方言を交えて、利用者を苗字にさん付けで呼び掛けている。接遇について、外部研修は輪番で職員が受講している。おむつやパッドなど本人の誇りを尊重し見えないように保管している。職員は守秘義務の誓約書に署名し法人本部に提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身が判断したり決定出来るような言葉かけの工夫を行い、自己決定ができることを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天候や体調、気分配慮しながら、希望を聞いて対応している。音楽鑑賞、塗り絵やパズルなどの個人レクも大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の好みに合った服や髪形を考慮している。身だしなみも支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑には季節の野菜を、種や苗から育てており収穫を楽しみにされている。食事は栄養士の献立でバランス良く食べて頂いている。またオヤツは季節の果物や、昔懐かしいお菓子などを楽しまれておられる。	食事は一週間分の献立を基に法人内施設で調理して配送する仕組みがある。届いた食事はキザミ食やトロミ食、ミキサー食など本人に合わせて提供している。誕生日会、クリスマス会ではケーキに利用者がフルーツを飾り付けており、その他ぜんざいを作ることがある。家族と一緒に外食することも支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分摂取量はチェックして健康管理の一助としている。食事形態は、各自に応じて工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きをして頂いている。洗面台で出来ない方はテーブル席にて口腔ケアして頂き、片付けの支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄が出来るように支援している。意思表示が困難な利用者に対しては定期的にトイレ誘導を行い、失敗の体験を少なくしている。日中はリハパンを使用し頂き、失敗があっても速やかに対応し自尊心が傷つかないように配慮している。	排泄チェックを確認しながら、定時に声掛けて誘導している。パッドサイズはミーティングで検討しており、本人に合ったものを提供している。ポータブルトイレは夜間のみ使用しており、使用後は都度洗浄し、居室に臭いがこもらないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	色々な飲み物を提供している。毎日の水分量、排便チェックを行い、かかりつけ医による指示のもと排便コントロールをしている。ラジオ体操を毎日実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	全介助または見守りが必要な利用者がほとんどで安全を優先するために、入浴日を決め利用者に協力して頂いている。入浴時には、出来るだけリラックスできるよう、ゆったりとした時間を確保している。	毎日、湯を沸かしており週3回の入浴を支援し、2人体制で入浴時に事故がないよう配慮している。入浴拒否時は声掛けを工夫して入浴したいと思えるように努めている。本人が好むシャンプー類や乳液なども確認できる。季節には菖蒲湯や柑橘類の湯も提供している。女性は気の合う利用者2人での入浴もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室では、いつでも自由に休むことができ、リビングにはテーブル席、畳、ソファで気分に合わせて休めるようにしている。夜間は静かな環境で安心して眠って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は個別にファイルし、用法用量はいつでも確認できるようにしており、変更があった場合は申し送りや伝達ノートを活用している。薬には名前、日付を記載し、与薬責任者を明確にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中での役割や楽しみを実感してもらえるよう、洗濯物たたみ、ちり紙折り、ゴミ箱作り等体調や気分に応じ手伝ってもらっている。テレビはユーチューブ動画に接続しており懐かしい昭和歌謡曲などを聞いて楽しく過ごして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り外の空気に触れるように散歩を実施している。また桜の花見や外食も実施している。地域の行事の、おくんちや文化祭、じげもん市に参加している。時にはドライブにも行く事もある。	春は桜の花見に散歩がてら車椅子の利用者も一緒に出掛けたり、秋には地域の文化祭に出掛けている。また、年2回は法人内の飲食店に外食を企画して全員で出掛けられるよう配慮している。また、日常的に外へのゴミ出しと一緒に出る利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の所持はトラブルの原因となる可能性があるため、ほとんどの方の金銭は管理者が管理をさせてもらっている。しかし外出の時は買い物の楽しみを味わって頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも対応できるようにしている。電話や手紙は自由にご希望に応えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、壁やホワイトボードに季節を感じられる折り紙や塗り絵などを掲示している。観葉植物を置いている。温湿度計をもとに室温調整に配慮している。	オープンキッチンを併設したりリビングルームは、利用者と共に制作した季節の飾りで彩られている。利用者は、ソファや畳の小上がりで思い思いに過ごしている。トイレや浴室は広いスペースを確保しており、車椅子利用者も快適に入浴できるよう、浴室の改装工事を予定している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのリビングには畳、ソファがあり自由に使えるようにしている。座席の位置は気の合う人を同席するなど工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物は継続して使用してもらい、写真、誕生会での色紙、各自の作品は目に触れやすい位置に置くようにしている。	使い慣れた家具類の持ち込みは自由であり、マリア像やスキンケア用品、家族写真や贈り物など、本人好みのしつらえが施されている。職員は、あえて目につく所には物を置かない等、利用者の状態に応じて快適に暮らすことができるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に整理整頓を心掛け、動線には障害となる物の排除を心掛けている。手すりを設置する事で安全に移動出来ている。必要な方のために居室、トイレ、浴室が分かるように絵や文字の工夫をしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202866		
法人名	有限会社あじさい		
事業所名	グループホームあじさい ユニット2		
所在地	長崎県佐世保市世知原町筥瀬778番地3		
自己評価作成日	令和7年8月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和	年	月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれたこの地で、理念に掲げているように家庭的な雰囲気の中で、「自由に楽しく笑顔で」をモットーに利用者様の尊厳を大切にする事で、安心して楽しく過ごして頂けるように職員一同ケアに努めています。また日々の健康管理に努めて出来る限り、お元気で長生きされるように支援しています。テレビにはネット接続し昭和歌謡曲などの懐かしい音楽を流しています。さらに地域行事や地域のインフォーマル資源を活用し、より充実した日々を送って頂けるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業者内に掲示し、朝の申し送り時には唱和を行い、理念共有に努め実践している。各自の勤務表にも掲げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月一回当施設にて世知原地区コミュニティセンター職員による絵本の読み聞かせを実施している。又地区文化祭準備と出品に携わり、文化祭見学している。また地区おくんちの道中見学、じげもん市見学している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の老人会の方や民生委員の方達に運営推進委員として参加して頂いている。その中で認知症についての症状、支援等について話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の利用状況説明、直近2ヶ月の活動、出来事の説明をしている。又職員の配置状況、内外研修の実施や受講状況の説明をしている。又苦情、アクシデントとヒヤリハット、加算の算定状況について説明し全体的なご意見を頂きサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方が多く利用されていることもあり、市町村担当者との連絡を取ることが多い。また分からない事があると長寿社会課に相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除については3ヶ月に1回を目安に委員会を開催し、指針の確認を行っている。職員への周知徹底は出来ている。日頃から拘束をしないで済むようなケアを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当事業所主催にて年2回、講師を招き研修を開催しほぼ全員参加されている。又外部研修にも積極的に参加し、また年2回の高齢者虐待防止委員会を開催し、指針の確認と兆候や問題点などについて話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度は高齢者虐待防止研修会で学習した。成年後見制度を利用されている利用者がおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書を基に十分な説明を行うことを心掛けている。変更時は文書にて理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置し、運営方針等も掲示している。また出来る限りご家族と話す機会を増やすように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを毎月行っており管理者は毎回参加し意見交換を行っている。代表も可能な範囲で参加し意見を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤務予定表、実績表にて把握している。また各自の実績や困りごとに随時相談に応じられ職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会参加を積極的に進めておりスキルアップを目指している。また管理者と常日頃から連携を図り現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加盟しており、連絡協議会主催の研修会や検討会に必ず参加している。その他のネットワークにも出来る限り参加しサービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の面接時に、ご本人の話を傾聴し、想いに寄り添うように努めている。表情や声のトーン、分かりやすい言葉使いで不安な気持ちに配慮するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の想いをまず、傾聴することを基本とし、当グループホームの説明を充分に行うようにしている。気軽に相談して頂ける様、雰囲気づくりにも配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応で本人・家族にとって最善の支援になるように心掛けている。様々な選択肢があることや柔軟な姿勢で対応できることを理解してもらうように説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症状状態にある利用者様の思いや行動を理解しながら想いに寄り添いながら楽しく過ごして頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の想いに寄り添えるように心掛け、何でも話せる関係の構築に努めている。また2ヶ月に1回「あじさい便り」に写真を載せて送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症発生時以外は面会を実施している。家族以外の面会も自由に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	現在盗られ妄想があられる利用者様が数人おられるので、交流がスムーズになるように職員が工夫し利用者同士が日々楽しく暮らせるように、また孤立しないように全般において配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、いつでも相談や支援が出来るような人間関係を構築するように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを表出できるような雰囲気づくりを行い、本人の意向を言葉として聞き取るか、困難な場合は本人の想いをくみ取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には可能な限り事前訪問を行うようにしている。ご本人及びご家族からの聞き取りや、文書からの情報を収集し、状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身状態、有する力は日々の業務で把握し申し送り時などで確実にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人及びご家族からの希望や意向を聞き取り、担当者会議で公表し意見交換後に計画を作成している。毎月のミーティングではケア会議を行い、意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画の作成を目指している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には、毎日の個別の様子や健康チェック、食事量・水分摂取量、排泄状況などを記録に残し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々、ご本人及びご家族の状況に応じて喜んでいただけるようなサービスを提供出来るように工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	面会や外出は出来る限り家族や友人の意向を重視している。また電話などは自由にご希望に応じている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は本人及びご家族の希望を最優先している。またご家族への連絡も密に行っている。かかりつけ医、本人、家族との関係が良好に築けるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切な受診や看護が受けられるように、看護職者に対し正確な情報を伝えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への情報提供を行い、病院関係者とのコミュニケーションにも努めている。ご家族も含め定期的に状況を把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について入所時のタイミングで、当施設の方針について説明している。終末期のあり方について、ご本人が判断できない場合は、医師からの説明後ご家族に判断して頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、日頃よりシュミレーションし、話題にしている。最悪の場合に備え、医師の指導を受け職員間で、実践力を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	消防訓練は年2回近隣の施設と合同で開催している。全員参加を目指している。土砂災害危険区域となっているため、年1回防災避難研修、訓練を実施している。運営推進会議で訓練の報告をしている。火災を未然に防ぐための対策として日中、夜間帯での自主検査チェックしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いは敬語、丁寧語にて対応し、個別的に支援することを目標にしている。誇りやプライバシーを傷つけることのないように、職員一同声かけあって努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身が判断したり決定出来るような言葉かけの工夫を行い、自己決定ができることを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天候や体調、気分配慮しながら、希望を聞いて対応している。音楽鑑賞、塗り絵などの個人レクも大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分の好みに合った服を自分で選んで楽しんでおられる方もいらっしゃる。身だしなみ髪形を考慮し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑には季節の野菜を、種や苗から育てており収穫を楽しみにされている。食事は栄養士の献立でバランス良く食べて頂いている。またオヤツは季節の果物や、昔懐かしいお菓子などを楽しまれておられる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分摂取量はチェックして健康管理の一助としている。食事形態は、各自に応じて工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きをして頂いている。洗面台で出来ない方はテーブル席にて口腔ケアして頂き、片付けの支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄が出来るように支援している。意思表示が困難な利用者に対しては定期的にトイレ誘導を行い、失敗の体験を少なくしている。日中はリハパンを使用して頂き、失敗があっても速やかに対応し自尊心が傷つかないように配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	色々な飲み物を提供している。毎日の水分量、排便チェックを行っている。ラジオ体操を毎日実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	全介助または見守りが必要な利用者がほとんどで安全を優先するために、入浴日を決め利用者に協力して頂いている。入浴時には、出来るだけリラックスできるよう、ゆったりとした時間を確保している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室では、いつでも自由に休むことができ、リビングにはテーブル席、畳、ソファで気分に合わせて休めるようにしている。夜間は静かな環境で安心して眠って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は個別にファイルし、用法用量はいつでも確認できるようにしており、変更があった場合は申し送りや伝達ノートを活用している。薬には名前、日付を記載し、与薬責任者を明確にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中での役割や楽しみを実感してもらえるよう、ゴミ捨て、テーブル拭き、洗濯物たみ、ちり紙折り、ゴミ箱作り等体調や気分に応じ手伝ってもらっている。テレビはユーチューブ動画に接続しており懐かしい昭和歌謡曲などを聞いて楽しく過ごして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り外の空気に触れるように散歩を実施している。また桜の花見や外食も実施している。地域の行事の、おくんちや文化祭、じげもん市に参加している。時にはドライブにも行く事もある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の所持はトラブルの原因となる可能性があるため、ほとんどの方の金銭は管理者が管理をさせてもらっている。しかし外出の時は買い物の楽しみを味わって頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも対応できるようにしている。電話や手紙は自由にご希望に応えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、壁やホワイトボードに季節を感じられる折り紙や塗り絵などを掲示している。観葉植物を置いている。温湿度計をもとに室温調整に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのリビングには畳、ソファがあり自由に使えるようにしている。座席の位置は気の合う人を同席するなど工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や飾り物は継続して使用してもらい、写真、誕生日会での色紙、各自の作品は目に触れやすい位置に置くようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に整理整頓を心掛け、動線には障害となる物の排除を心掛けている。手すりを設置する事で安全に移動出来ている。必要な方のために居室が分かるように絵や文字の工夫をしている。		